

令和7年12月8日

総務文教委員会

阿久根市議会

1 会議名 総務文教委員会

2 日時

(1) 期日 令和7年12月8日(月)

(2) 開会 午後2時40分

(3) 散会 午後3時55分

3 場所 第1委員会室

4 出席委員

川原 慎一 委員長

竹之内 和満 副委員長

大田 基次 委員

大野 雅子 委員

白石 純一 委員

木下 孝行 委員

牟田 学 委員

5 欠席委員

なし

6 職務のため出席した議会事務局職員

上脇 重樹 次長兼議事係長

7 説明員

猿楽 浩士 総務課長

白肌 隆一 総務課長補佐兼デジタル推進係長

8 会議に付した事件

(1) 議案第50号 阿久根市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(2) 所管事務調査について

9 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

川原慎一委員長

ただいまから総務文教委員会を開会します。

本委員会に付託された案件は、議案第50号阿久根市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定についての1件です。

審査は、配付した日程表のとおり進めてまいりますので、よろしくお願いします。

◎ 議案第50号 阿久根市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

川原慎一委員長

議案第50号を議題とします。

所管する総務課に出席を求め審査を行います。

総務課は入室してください。

〔総務課入室〕

所管課に出席いただきました。

それでは改めて本案の説明を求めます。

猿楽総務課長

議案第50号について御説明申し上げます。

本市では、地方公共団体情報システムの標準化に伴い、国が定める標準仕様書に規定された住登外者宛名番号管理機能をシステムに実装し、住登外者の宛名番号を一元的に管理することとしております。

住登外者とは、本市の住民基本台帳には登録されていませんが、行政サービスを提供する上で記録する必要がある個人を指し、具体的には、阿久根市内に固定資産を有する市外居住者や、市外の高齢福祉施設への入所後も被保険者資格を継続したまま転出する方などが該当いたします。

この住登外者を管理する機能については、国の通知により、個人番号の独自利用を行う事務として条例に定める必要があるとされたことから、条例の一部を改正するものであります。

改正の内容につきまして、条例議案等参考の1ページを御覧ください。

第4条は、個人番号を利用する法定事務または準法定事務について、市の住民基本台帳に記録されていない者を特定するために付番する住登外者宛名番号の利用を可能とする条文を追加するものであります。

別表第1の改正は、住登外者宛名番号を付番し、管理する事務を個人番号の独自利用事務に追加するものであります。

2ページから3ページにかけて御覧ください。

別表第2の改正は、独自利用事務を処理するに当たり、住登外者宛名番号を市の同一の執行機関内で利用できるよう、特定個人情報に住登外者宛名情報を追加するものであります。

別表第3の改正は、市が管理する住登外者宛名番号を教育委員会でも利用できるようにするための規定を追加するものであります。

最後に、議案書の9ページを御覧ください。

附則においては、条例の施行期日を公布の日としております。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

川原慎一委員長

所管課の説明が終わりました。

質疑に入ります。

質疑ありませんか。

白石純一委員

ちょっと教えてください。

条例議案等参考の２ページで、子供に関する事務が出てくるんですが、これは阿久根市、例えば隣の出水、長島の住民の方で、阿久根のこども園とか幼稚園を使う方等が実際、対象になるんでしょうか。具体的にどういう方が対象になるんでしょうか。

猿楽総務課長

保育園等につきましては、市外の方というのは、やはり市外に届出になりますので、関係はございません。なので、保育園の場合は、市があるところに保護者が行っていて、阿久根の入園を希望するよということなので、こちらは直接、保育所には関係ない。ここに載ってあるとおり、医療関係について、保護者の住所だったりとか、保護者と子供の住所が違う場合には、関連してくるよっていうお話です。

白石純一委員

例えば、子供が阿久根市に住民票がないけれども、阿久根の病院にかかったりする場合に適用されるということですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

この別表につきましては、市外の方がっていうのも関係はするんですけど、もともとがちょっと違うものになってまして、マイナンバーの制度が始まる前までは、例えば児童手当だったりしたら所得判定するための所得証明書を出してください、紙で出してくださいってなっていたと思うんですけども、マイナンバーの制度ができたときにそれをもう電子的にやり取りして、もう証明書出さなくてもいいというふうになったんです。

その事務については、法律の中で、この事務についてはできますというのが定められてまして、法律に載っていないものについて、この別表第２っていうところで、条例で定めればできますというふうな内容になってまして、それ自体は今回の条例改正で充当外の宛名情報ということで、市外の住民に関係ある方も関係あるんですけども、もともとはちゃんとそういうので証明書を求めなくてもできますよっていうのでつくったものになってます。

子供医療費とか独り親とか基本的には、市内に居住される方が対象になるので直接的に項目を追加することによって該当が増えるとかそういうのは余り想定はしてはいないんですけども、一応、条例を扱う上では条例を立てないといけないっていうことで、改正する内容です。ちょっと分かりにくくてすみません。

白石純一委員

この条例改正は、住民基本台帳が阿久根にない方を対象、住登外者の情報管理ということなので、基本的には阿久根に住民票もない方も対象にしたということですね。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

基本的にはそういう立てつけになっております。

白石純一委員

そうすると例えば、ここに教育委員会委員も出てくるんですけども、先ほど具体的な例

として、固都税の納税者で市外におられる、住んでらっしゃる方。あるいは、福祉施設に入居されてる方との具体例が出てきましたけれども、例えば、病院とか教育委員会に係る住登外者というのは具体的にどういう方を想定されるのでしょうか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

例えば所得情報とかは、1月1日時点で居住しているところが証明を出すっていうのがあるんですけども、例えば、1月1日以降に転入された場合はほかの市町村のところで持っている。そういうところに照会をかけるときに、まだ、市内にはまだ宛名番号というものがなくて、住所の情報がなくてとか、そういうときに先に宛名番号だけを振って、それを基に紹介するっていうケースが、実際、教育委員会のほうではそんなにないんですけども、例えば市営住宅に入居されるっていう方とかそういうときにそういうケースが該当します。

白石純一委員

今の件はよく分かりました。

直接これに該当、関係するのか、外国人の技能実習生などは、基本的に住民票も阿久根に置かれる、置くことになっていると思うんですが、そういう方は今回何らかの関係はこちらでは出てこないんですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

外国人の方については、先ほど申し上げましたとおり法律で定められた事務であったり、ここの条例に書かれている事務に該当するものであれば対象にはなる可能性がありますけれども、それ以外の、何でもかんでも紹介できるっていうふうにはなっておりませんので、その辺りちゃんと限定されていますので、ケースバイケースというふうにしかなここではちょっとお答えできないんですけども、そのようになっています。

木下孝行委員

確認なんですけど、この個人番号制度を新たに追加するというか、情報管理をスムーズに進めるためのことでやるということによって基本的にはいいと思うんですけど。

市外者で固定資産を有する人や市外の施設等に入所する人たちの情報管理をスムーズに進めるためというふうに認識すればいいわけですかね。一言で言うなれば。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

そのとおりでございます。

竹之内和満委員

住登外者ってほとんど聞きなれない言葉なんですけど、この住登外者の情報を行政が把握することによって、行政のほうは何かのメリットというか、何か利点があるんですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

メリットと言われるとちょっと、なかなか難しいところではあるんですけども、固定資産税の課税をするときには、住民でしたら住民情報から対象者を決めて納付書を送るとかできるんですけども、住登外者の場合は住民基本台帳には載っておりませんので、また別のところで、その住登外者宛の番号を管理機能というところを使って登録して送る。固定資産でいえばそうなります。先ほどありましたように、市外の施設に入居されてるとかそういう方についても同じような感じで行政サービスを提供するためにそういう登録をしておかないといけないというところになります。

竹之内和満委員

住登外者であっても住民サービスは受けられるというのですかね。どうなんですかね。

猿楽総務課長

なかなか難しいところなんですけど、住登外者という、システムに実装するのはこれからなんです。税のシステムや、あるいは保険のシステム、住基システム、同じ人でもコードはばらばらに今なってるところを一本化する、この標準化によって。その実装が始まるというところは利点なのかなと思います。だから、税システムは同じ阿久根太郎さんがいる。違うシステムでも阿久根太郎さんがいるっていうところで、システムごとに付番していた番号制度を一元化することによって利便性を図るというか、一本のコードでその人に住登外者に該当する情報が入ってくる。一元化されるというところが1番ではないかなあとも思います。

木下孝行委員

プラスの面ということを今聞かれて、そういう答えになったんだろうけど。簡単に言えば宛名番号を付番することで手続きがスムーズに今よりも進むようになるということで理解すべきじゃないですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

住民側の利点という意味ではあまりさほどないかもしれませんが、職員のほうからしたら異なるシステムで違う番号が振られていたのを、同じ方だっていうふうに特定する作業っていうのはなくなりますので、その辺りは管理がやりやすくなるのかなっていうところはございます。

大野雅子委員

その住登外者の情報はどこまで。お名前と住所とそれだけなんですか、そこに登録されるのは。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

基本的にはお名前と現時点でお住まいの場所であったりとか、あとは生年月日が分からないと特定できませんのでその辺りであったりとかですね、基本的には住民基本台帳と同じ程度の情報は把握できるようになるものと考えております。

大野雅子委員

その方のマイナンバーも登録されるというわけではないんですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

現状としましては、システムごとにはなるんですけれども、そういうサービスを提供する必要がある方については今も付番はしております。

ですので、基本的にはもうされるものというふうに考えて差し支えないかなと思います。

大野雅子委員

今度のできる番号っていうのは、全部で、国内でつながるわけじゃなくて阿久根市だけの番号ということになるんですか。

白肌総務課長補佐兼デジタル推進係長

今回の住登外者宛番号については自治体内だけで共通の番号という形になります。

川原慎一委員長

ほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑ございませんので、以上で所管課への質疑を終結します。

総務課は退室してください。

〔総務課退室〕

それでは議案の採決に進みます。

討議を行います。

討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、討議を終わります。

続いて討論に入ります。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、討論を終結します。

それでは、議案第50号、阿久根市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決します。

本案は、可決すべきものと決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

よって、本案は可決すべきものと決しました。

◎ 所管事務調査について

川原慎一委員長

次に、所管事務調査を議題とします。

調査事項としている2件について、先日、長崎県西海市及び同県東彼杵町へ行政視察を行いました。

本日は、視察の終わりにお伝えしていただきましたとおり、行政視察を行っての感想などの意見交換を行います。

意見交換は、最初全員にお一人ずつ感想を述べていただき、その後、討議の形式で自由に意見を交換していただきます。

○ 洋上風力発電について

川原慎一委員長

まず、長崎県西海市の洋上風力発電の取組を議題とします。

それでは、どなたからでも結構ですので、感想・御発言をお願いします。

竹之内和満委員

西海市の洋上風力のほうからなんですが、結構前からですね、西海市は住民説明会をしてるんですよね、相当、平成30年からやっていますので。大分時間をかけてこういうふうに、地域検討会とか地域の方に、ちゃんと一緒に話し合ったというところがやっぱり準備はよくできてるかなというふうに思います。

そして西海市は、ゼロカーボンシティで、再生可能エネルギーについてそれでやっっているということになっているんですけども、それに基づいて陸上のほうもしてるし、洋上のほうもすると。火力も、火力が2基あったのが、火力を中止・廃止して、再生可能エネルギーを中心にやっていくということになっているので、そういう市の全体の構想があって、洋上風力発電があるのかなあというような感想を持ちました。

木下孝行委員

西海市を視察しましたが、その前に、佐賀県の唐津市、また、秋田県の秋田市を総務文教委員会で視察をしてきております。

再生可能エネルギー、特に洋上風力は、その地域にとっては経済効果が、相当な効果をもたらす。そして、固定資産税を行政効果として受け入れられるなど、メリットがかなり多い事業であるというのは西海市でも確認ができたところであります。

本市もこの令和4年から、私ども議会の中でも議員連盟を立ち上げて、推進、積極的に活動をしてきております。

西海市においても、今、促進区域に指定をされ、公募に至る直前の状況でございますけども、その過程というのは非常に、今、竹之内委員からもありましたように、長い年月をかけながらいろんな努力をされてここまでこられたということは確認ができました。

当市でも、24年からの動きでございますけども、北さつま漁協が一時、反対決議まで出すというような状況でございましたけども、今、北さつま漁協は新しい組合長の下、推進に向けて考え方を変えられ、阿久根市と一緒に行動して、一定、将来的にも漁業のためにもなるということと判断されて、今、前向きに検討されているという状況でございます。

そうした中、阿久根市の行政当局も、この間の一般質問等で、渡辺議員の答弁にもありましたように、阿久根市としても推進に向けて努力をしていくという、こういう状況でございます。

そういう中では、ぜひとも、私が議員連盟の会長として、令和4年にいちき串木野市の中屋市長と阿久根市と合同要望活動を県庁にしてから、串木野市さんは、もう本年度9月には情報提供され、一定の準備ができてる地域に指定をされております。

阿久根市は、少し、一歩遅れた状況ではございますけれども、漁業関係者が賛成のほうに向かって協力的になったということは大きな前進でありますし、今後、阿久根市も情報提供を求めていく中では、委員会としても積極的に後押しをしていくというようなことが私は必要だと思いますので、そういった方向で話ができればいいのかなと思います。

白石純一委員

この江島の周辺に計画されてるわけですがけれども、この江島に関わった、江島のまちおこしですね、地域おこしに関わった方をちょっと知人だったものですから、お話も聞けたんですけども、この江島のかなり漁業が後継者がおらずに、大変衰退しているというところに、この計画が渡りに船という形で、今、島の開発、地域おこしにかじを取っていらっしゃることが非常によく分かりました。

その辺と阿久根の状況も多少、これは西海市からの、かなり離島の部分でございますので、その辺の阿久根との類似点、あるいは漁業という意味での類似点、あるいは本土、離島というのの相違点、その辺りもしっかり分析して、今後も研究をして行きたいなと思いました。

大田基次委員

三菱商事が撤退するとかそういうニュースもあったんですけども、これから先、また国はいろんな変化をつけて動いてくるというふうに思っておりますので、できるだけ早めに、阿久根も、漁人への説明会・勉強会、あるいは地域住民への説明会等、早めに進めていかなきゃいけないなど。期間が向こうのほうでも随分分かかってるようですので、我々も早めにどんどんどんどん動いていくべきだなというふうに思いました。

大野雅子委員

実際、着床式洋上風力発電っていうのが、実際、私は目で見たことがなくて、今回は見れなかったわけですがけれども、丁寧に地域の方と話し合いを続けていらっしゃるなあというのはすごく感じました。早くからですね。そこの必要性っていうのは、やっぱり、阿久根で行う

にしても、そういうのはとても大事なんじゃないかと思います。

あと、ゾーニングマップの作成とかですね、ずっと作っていらっしやって、順序立ててしっかりやっけていらっしやったので、それっていうのはとても大事なことなんじゃないかなあと思いました。

そして最後に、私が地域の人たちへの夢はどうですかというところを聞いたときに、今から考えていけないといけないというような発言だった気がするんですけど、違いましたかね。そこら辺がちょっと。その対象者の人たち、漁業者は今のところ、そういう意見も発言もあったなっていうのが気になったところでした。

牟田学委員

阿久根市は今から取り組むという感じでありますけれども、この西海市が先にやっけるといところを私たちもそこも勉強しながら、やはり今、漁協が前向きな方向、阿久根漁協がですね、前向きな方向であるということは確認ができていますので、やはり西海市が今まで行ってきた、いわば工程ですね。これをしてこれをしてっていうところをですね、私たちも学んで、それをまた資料として使えるというか、そういう感じですね、私たちも今からその事業に取り組んで、議会として取り組んでいければというふうに思っております。

川原慎一委員長

それでは最後に私のほうから感想を。

西海市のほうはですね、地域検討会を開いてやっておられます。中浦地区、江島地区、合同で行う検討会。そして勉強会、先進地視察、現地調査等を含めた検討会というものをやはりしっかり順を追って丁寧にやっていたということは、私たちこれから、この洋上風力に取り組むということでは大変参考になったのかなと思いました。こういったことを、やはり地域住民、漁業に携わってらっしゃる方々としっかりと勉強していき、それから以後、進めていくべきかなというふうに感じたところでございました。

それでは、全委員の感想を伺いましたので、これから自由に意見交換をしていただきたいと思いますと考えます。

御意見はございませんか。

討議形式で意見交換していけたらと思いますので、よろしくお願いします。

いかがですか。

木下孝行委員

意見交換と言うか、報告も兼ねてなんですけども、議員連盟の会長といたしまして、先ほど議長からお話がありましたように、8月の20日の日に議長と議員連盟の会長ということで、2人で組合長のところに、新しい組合長のところに行って、組合長と話をしたわけなんですけども、内容的には、もう頭から、新しい組合長は賛成ですと、協力していきますと。これで漁協も少しよくなるようにですね、持っていきたいんですと。漁協、漁民含めてですね、関係者、少しでもよくなるように持っていきたいと。

これからの漁協は、だんだん衰退していく中でどのように生き残っていくかが1番課題ですから共存していきたいと思いますというような話をされた中でですね、執行部も、去年の私の一般質問、渡辺議員の今回の質問も踏まえて、積極的に推進していくという話で進んでおります。

全体の動きとすれば、周知の部分がまだ少し足りない部分は十分あるだろうとは認識しておりますけども、最初の情報提供というのは、あくまで一定の関係者が前向きに準備ができ

ていけば、それが情報提供できるというそういう内容になっております。

そういう中で、いちき串木野市も、情報提供を去年と今年やって、今年のところで9月には一定の準備ができている地域に国から指定されたといういきさつがございます。

その足りない部分は今後埋めていけばいい話であってですね、4月には鹿児島県知事のほうに阿久根市、そして民間の協議会がございます、そして漁協、商工会議所、議長、市長、議員連盟で要望活動に行く方向で今、進めております。

先ほど言いました足りない部分は、今から埋めていけばいいのかなというふうに考えて、おりますし、情報として皆さんにもお知らせして、また協力をお願いをしたいと思います。

竹之内和満委員

先ほども言いましたけど、西海地区のまちづくりの方針がゼロカーボンシティを目指し、再生可能エネルギーを推進する、その方向性でいくから、地域検討会にしる、勉強会にしる、先進地視察にしる、行政が物すごく積極的だなあという印象を受けましたので、やっぱり行政が相当音頭をとっていかねばなかなか先に進まないような気がします。

そこで、議員としてどういうことをするかというと、やっぱりこういうのがいいですと行政のほうに働きかけて、どんどん積極的に行政が動いてくれるように、そういうふうにしたほうがいいのかなあというふうに思います。

木下孝行委員

もう一つですね、情報として、一応、漁業関係者による説明会は去年の8月18日に漁協がやっております。1回はやっているという、1回で十分じゃないと思いますし、漁協も何回となくやるというような考えを持ってらっしゃるし、阿久根市としても、その他の人たちに対する説明も今後は、準備をしていかないかんというのは理解を示しているところであります。まして、今後は行政が中心に、中心というか先頭に立って動いていくプロジェクトでありますので、一応、行政のほうが主体的に動いていくというような話は進めております。

大田基次委員

行政が中心になって動いてもらえるっていうのは1番大事なことだと思います。

それと、今、去年の8月の時点での漁協長というのは反対だったと思うんですね。

〔木下孝行委員「6月まで。6月に総会があって変わった」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

すいません、委員会中です。

大田基次委員

ごめんなさい。賛成の漁協長がいらっしゃるうちにですね、何回となく勉強会、そういう方法をとったほうがいいのかなというふうに思います。

白石純一委員

もちろん漁協・漁民の方々の同意を得ることをなくしては当然、このプロジェクト、進まないわけですが、私は一つ、もう別の角度から検討が必要ではないかなと思ってるのがですね、阿久根は観光でまちづくりをしたいという、市長も言っておられます。私もまさにその考えですが、これをですね、観光の面から見て、確かに人工美を売りにして、例えば視察とか、行政視察とかそういう方々の観光は需要が上がると思うんですが、一方で、阿久根の何もない海に沈む夕日、これを期待してこられる観光客の方も、あるいは移住される方もおられるわけで、そうした方々の意見も、もう一方でこの委員会で、あるいは今後の市の取組でですね、それも検証していく必要があるのかなということはちょっと思っていま

す。

川原慎一委員長

ほかに御意見ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、洋上風力発電について意見交換を終わります。

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

続きまして、長崎県東彼杵町の移住定住促進策の取組を議題とします。

それでは、どなたからでも結構ですので、感想を御発言お願いします。

白石純一委員

東彼杵町の移住推進策というのは、隣に比較的大きなまちがあり、そちらをうまく利用しているということが非常に印象に残りました。

例えば、そちらに働きに行かれる方に対する通勤の補助、通学の補助をしたり、あるいはそういうところで働いてる方の定住、ベッドタウンとしての住宅取得に対する補助などなどですね、非常に今、まちの規模としても阿久根も似たようなところですので、大変参考になる施策を非常に力を入れて取り組んでおられるので、阿久根としても十分に見習い、例えば同じ施策、政策もすぐにでも実行できるのもあるのではないかなという印象を強く持ちました。

大野雅子委員

私も東彼杵町に行って見せてもらったところ、本当に阿久根と規模があまり変わらないのに、空港が近いっていう利点は阿久根にはないのかなと残念ながら思いましたけれども、10年後に向けてのこの第6次東彼杵総合計画を立てていらっしゃるって、ちゃんと一つずつの政策を10年後にどうしたいかっていうのを、とても分かりやすく作り、それに向かって一つずつ、交流人口関係人口も増やしていこうと、そして住みたいまちにしていこうと、ずっと続く、暮らしやすい、暮らし続けたいまちをつくろうとしているところが阿久根のまちと似てるなというのを感じて、この移住定住促進のあれだったり、この東彼杵のファンをつくる取組だったりとか、とても、阿久根も本当に始めればいいんじゃないかなというような学ぶべき内容がたくさんだったので、阿久根もどんどんこのように、交流人口、関係人口、そして移住定住に向けて進めていってもらえたらありがたいと思ったところでした。

竹之内和満委員

いろいろ向こうのほうで、東彼杵町で話を聞きました。

それこそ妊娠時からの支援があるという、妊娠のときに出産応援ギフト5万円支給して、出産一時金って出産のときまでお金があり、そのあともどんどん報奨金がすごい。出産祝い金も、金額は阿久根市としたらば、1人目が10万円でどんどん上がっていったら5人目はもう1人40万円という、やっぱりそこまでしないと何か人は集まらないのかなという気がします。

それと、先ほど白石委員からありましたが、遠距離通勤の人たち、また通学の人たちは、補助金を、応援金を出すというのはなかなか今まで聞いたことがないような感じがします。最大9万6000円出すということで、例えば、東彼杵町の高校まで出て大学が市外に行った場合もそれも全部出るという、何歳ぐらいだったかな、40歳未満まで通勤も含めて、そこまでなかなか徹底的に支援するというのではないかな。本当、住みやすいまちだろうなというふうな感想を受けました。

ここまでやっぱりちっちゃい町だからこそできるかもしれないけれども、阿久根もだんだん人口減っていくので、大きい支援をしたほうがいいのかなあというふうに思います。

木下孝行委員

私も東彼杵町に行ってよかったなと思う一人であります。内容的には皆さんが言ったように、とにかく空き家対策、IターンUターン含め、子育て対策も含め、結構な移住支援、定住支援のパッケージをつくっておられるということで、内容的にも参考になる補助事業がかなりあるということで、一概に阿久根と比較して、全てが阿久根に合うかといえは合わない部分もあるだろうと思いますけども、中にはいいものもありますから、阿久根にないものをやっぱり取り入れていくように、この研修視察を無駄にしないためにも、執行部との意見交換をしていくべきではないかなというふうに思います。

ちなみにこの前、企画推進課の補佐とちょっと話をしたときに、先ほど2人の委員から出たような、移住を防ぐために阿久根から通勤する人たち、その人たちの支援は、これはちょっと考えたほうがいいんじゃないのという話もしたところでもあります。阿久根からほかに移らないためにも、そういう働く人たちに阿久根に残ってもらうための補助も必要じゃないのというような話もしたところでもございますので、今後は、いいものは阿久根に取り入れられたら取り入れて、人口減少そして少子化を防いでいくような話をしていったほうがいいのかなと思いますね。

牟田学委員

今のこの阿久根の土地といいますか、今、出水それと薩摩川内市。薩摩川内市では、データセンターを造ろうと、日本一のデータセンターを造るという計画が上がっております。そして出水に関しては、冷凍食品ですけれどもその第2工場を今、造り方であります。

そういった中で、この阿久根の土地。土地がないってところを私は感じていて、企業誘致とかそういうのはもうちょっと置いてですね、今言う移住・定住に関しては、私は、阿久根は妊娠・子育ての支援分に関してはある程度のことはやっているとっております。

だから今、東彼杵市がやってる手厚い補助というのもありなんですけれども、移住定住に関しては、そういった企業誘致はもうちょっと阿久根は、私はちょっと難しいなとっておりますんで、そういった移住・定住、子育て、そちらのほうに予算を向けるべきかな、そうでないとちょっと厳しいのかなっていう感じは思っております。

大田基次委員

移住・定住って物すごく難しい課題だと思うんですね。だから、例えば出水に2件出て行って1件入ってくる。川内に5件出て行って3件入ってくるとか、それは全体的に、私はそういうのはあんまり大差がないんじゃないかなというふうに思ってるんです。

これをきちんと進めていこうとすれば、莫大な予算が要るのかなというふうに感じております。私はですね。牟田委員が今おっしゃいましたけど、私は逆ですね、やっぱりどこかに企業でも来れるような敷地を準備しておくというのはやっぱり必要なのかなあ。そういった面から進めていってもらったほうが、確実な定住とか人口増にはつながるのかなあというふうに感じました。

牟田学委員

要は交通網なんですよ、一つは。西回りがつながれば、少しは明かりが見えるかもしれませんが、今の状態じゃ私はちょっと厳しいのかなと。

その分、その分をって言っちゃいけませんけれども、人口減少につながらないような施策

のほうに予算をちょっとつけたら違うのかなあというふうに私は思っています。

〔大田基次委員「意見交換の場ですか」と呼ぶ〕

〔発言する者あり〕

川原慎一委員長

今は感想です。

それでは私のほうから感想を。

確かに大変行ってよかったというふうに考えているところですが、潤沢にあるお金を使ってるわけでもなく、東彼杵町も、ふるさと創生事業基金も、これって大村競艇からの、それのお金が今基金があった分を取り崩していつてる状況であるっていうこと。あとは国の補助金であったり、ほかは過疎債使ったりとかしているんですよね。ってなってくると、今、現状として、今は出せるけどもここから先永遠に出せるかっていうと出せないところもちょっとあるなっていうところの危険性は感じました。

あと思ったのがですね、新規の工業団地の造成事業の中に農地の転用というのがあったんですけども、この農地転用というの、これ特区でやってるような話をされておりましたけども、ここまで持っていくのにも非常にいろんな手続であったり、またいろんな方々の行政で、国、県、そういったところのものも必要になってくるというふうに考えると、非常に大きくやっているのは分かるんですけども、ここをどういうふうにやっていくのかっていうところ、阿久根がやるってなるとですね、そこを考えたときに、いい取組ではあるけど潤沢に阿久根だってないわけだから、そこをどういうふうにここを利用してまたやっていくべきかなど。でも、アイデアとしては非常にいい、参考になったので、行ってよかったというふうに考えました。

それでは、全議員に感想を伺いましたので、これから自由に意見交換をしていただきます。ここからどうぞ皆さん御意見を。

〔発言する者あり〕

木下孝行委員

本当にいい補助金制度、パッケージをつくっておられるというのはもう確認を、先ほども言いましたけども。その中でも多くは取り入れることも難しいだろうと思いますので、この中から絞りながらですね、阿久根にちょうどふさわしいもの、財源的にもできるようなものから始めていけばいいのかなと思いますし、ただ、東彼杵木町においても子育て対策を一生懸命しているけど、子供の出生率はなかなか上がっていないというのが、実際、現実、そういう大きな問題も抱えているということで、どこまでやればいいのかということも含めながらまた考えなければいかんだろうと思いますし、先ほど企業誘致の話も出ましたし、当然、若い人たちが残っていくには、阿久根にしっかりと企業がたくさんあることが一つの条件になるんだろうと思えば、やはり今、阿久根市は工業団地がない状態であります。数年前にも、今、川内に誘致されておられる企業ありますけども、阿久根市出身者でありながら、阿久根市に最初お願いをしたけど、工業用地がなく、まず条件に合うところがなかったということで川内のほうに立地をされたというようにいきさつもございます。いつどういう話が持ち込んでおられるか分からない状況を考えれば、阿久根市は、常に工業団地は用意しておかなきゃいかん状況も必要になるんだろうと思いますし、そうしておかなければ、おいしいものがそこにぶら下がってきてもそれを取れない状況が続くというのは、決して、今後、将来にとってもよくないことだろうと思いますし、あわせてですね、ちょっと議長の牟田委員のほ

うの話とは私の考えはちょっとずれますけども、やはり新しい工業用地を確保するための用地確保には予算を使わない、用地確保のためにはやっぱり議会としても執行部に対しては言っていかなければいけないのかなと。

これ私、個人的な考えですけども、佐潟のゴルフ場の土地、あそこに約9万平米ありますけども、3分の1は市の土地で、3分の1が民間のまだ所有で、3分の1は当時の烏山城カントリークラブが売ったんだけど名義を変えてない土地があります。そういうところをですね、虫食い状態で何も使えない状況ですけど、そこを民地なり、昔烏山城が売ったまだ名義が変わってないところなんかも踏まえて一つの集約した場所に確保していけば、そこに一つの工業団地ができるんだろうということで、私も以前、一般質問で、潟の保留地と等価交換しろと。等価交換すれば喜んで佐潟んしは売るんだからと。潟の小さい土地が1000平米ぐらいと同じような値段になるんだから、ていう話も一般質問でして、とにかく、そういうことで確保するように動いてくれっていう質問をしたことがありますけど、なかなか執行部のほうもそこは動けなかったというのがありますし。

だからといって、諦めずにですねやっぱり、阿久根市としては工業用地の確保ということだけはやっぱり続けていくべきじゃないかなあというふうに私は思ってます。

牟田学委員

近頃といいますか、この頃なんですけど、先週、私ちょっと熊本のT SMCの第2工場の建設地を見てまいりました。もうすごいですよ。

そういった中で、私が言う出水のあの出水平野の中で言うたとおりにニッポンがまた工事を造ってます。川内に行けば、火力発電所の跡地にデータセンターを造ると、それを田中市長も言われてですね、両隣おってすごいなと。

その中で、私が今、この頃考えが変わってきたのは、ちょっと先ほど言ったように、高速が通らんとちょっと無理やなあというところで、じゃあ何に予算を分配すればいいのかとしたときに、この東彼杵もですけども、人間に人にやっぱり、これから投資していかないかなと。もちろん子育てもだし、両方ともできないのかなというふうに思って、阿久根市は人にちょっと予算をつけていけばどうかなというふうに今思ってます。

大田基次委員

これ一つの案としてしゃべってもいいんですかね。

川原慎一委員長

御意見、自由ですから。

大田基次委員

今、現在ですよ、家を建てようとするれば建築価格が物すごく上がってて、造ろうとするれば本当、非常に大変だと思います。ただですね、阿久根は市内近くにですね、結構立派な空き家が残ってるんですよ。それを定額で買い取るというのも一つでしょうけれども、寄附採納、空き家になったものの住めるような住宅は寄附採納を募れば全く出てこないわけじゃないんじゃないかなというふうに私は思ってるんですね。それが4～5件でもいいと思うんです。そういうのがあったときに、そこに市がちょっとした手を入れて、誰でもいつでも、それを買い取る、買える。阿久根に来れると、住めるというようなのもどうかなあというふうには思っております。

竹之内和満委員

やっぱり移住するとき、何を持ってよそから来るかなといったら、やっぱり勤めるところ

がある程度ないとなかなか来れない。また、子育て支援がどんだけかというところだと思えるんですが、阿久根市にしろ東彼杵町にしろ大きい会社はないです。ないときどうするかとなると、よそに勤めてもこのまちに住んでねというそういうやり方。遠距離通勤、通学に対してお金を出すような形しかないのかなと。

あと、会社を起こすとか起業する場合に、300万円ぐらい、たしか東彼杵町は出してると思いますけれども、そういう方法しかないのかなという気がします。

ただ、そういうことが全部あったとしても、やっぱりそのまちが魅力的じゃないと、やっぱりなかなか残らないと思うので、やっぱりまち自体を魅力的な方向にする、どうしたらいいかってなかなか出てきませんが、やっぱり魅力的なまちじゃないと住んでも面白くないと思います、よそから来て。そういうまちにできたらなあ、みんながとても優しいまちで、そういうふうに思ってます。

白石純一委員

東彼杵町が特別町民サポーター制度というのをやっています。私も早速入ったんですけども、いろんな案内が送られてきて、そのイベント、ああ面白そうだなと、都合がつけば行ってみたいなというイベントもたくさん案内していただいています。

そうしたところは、やっぱり、市外にそうしたファン組織をつくるということは大事なかなと思います。

阿久根ともつながりのある富山県南砺市も同様の特別市民サポーター制度を持っています。そこにも入ってますけれども、いろんな案内が送られてきて、例えば特産品の案内だとか、イベントの案内、そういうところを見てると、非常に、身近にあっても、もしなんか、遠いですがけれども、近くに行く用があれば行ってみようかなというようなことで、効果はあるのかなと思います。

阿久根もそうした、市外に、出身者を含めてですね、たくさんのファンづくり、サポーターの組織をつくるのも一つの方法かなあと思っております。

〔大田基次委員「いい方法ですね」と呼ぶ〕

大野雅子委員

私も同じようなところで、飛騨市もヒダスケっていうファンづくりをやっぱりやられています。そこで、それこそ来て、飛騨に来てツアーを連れていったりとか、市長と一緒にしゃべりできますよっていう機会をつくったりとかですね。何か面白い企画をいろいろやって、やっぱり交流人口、ファンをすごく獲得しているようです。

そういうのからやっぱり見てて、飛騨に興味を持ってもらって、そこに移住する、まず好きになってもらうには何かそういう仕掛けが必要かなとは思ってるんです。

ただ阿久根がいいところです、来てください、来てくださいだけではもう興味をまず持ってもらえませんが、そんなして、今、移住定住の1か月の住めるというのをまた始めておりますけれども、それだけでは足りませんので、いきなり来てくれじゃなくて、まずファンを獲得して、まず、そして、ふるさと納税とかにも興味を持ってもらったりとかして協力してもらえる。もしここに住む住民じゃなくて興味を持ってくれる交流人口ですね、そちら方面をまたまず増やしていくのも大事なかなと思っています。

ただ、今、本当に今ここにいる若者たちが新しい家を造るときに、やっぱり不便だと言って、出水なんかには家を建てても増えてるっていうのをやっぱりどうしても聞きます。それは、交通の便も便利です、新幹線も通りますし出水でしたらね。そのほか、ちょっと

したショッピングも、出水のほうが便利だということで、そっちに造る若者も増えていますが、やはり自分たちの生まれ住んだまちに、ちょっと不便だけどやっぱりここがいいなと思えるようなまちづくりをしていかないといけないっていうのと、そういうちょっとした通勤の手当とかそういうのも、必要なところには織り交ぜていって、やっぱり若い人たちにも少しそういう支援をしてやるっていうことで、また新しく家を造った人には、ちょっと、しばらく税金は補助してやるよとか、いろんな方法、差別化を少し向こうの隣に造らなくてもこっから仕事に行ってくれよというようなつくりができてくれば、人口減が抑えられていくんじゃないかなと思っています。

若い人にも選ばれるまちに、女性もですけども、若い人たちに選ばれるまちになっていかなければいけないなと思ったところです。

大田基次委員

今、委員の方からいろんな意見があって、すごくいいなっていうのもあるんですね。

こういったの中で、せっかく委員会を開くんだから、一つか二つでも行政に相談して、動いてもらえるようなのはないのかどうか、その辺も相談できる、動くということになるんだと思うんですけど、動きがないと話をしただけでは、ほぼ変わらんのかなというふうに思います。だから、訴えていく方法というのもやっぱり、何かの形でできればなあと思います。

川原慎一委員長

今、大田委員からございましたが、最初の委員会的时候に説明をしてございますが、この移住・定住策については、この委員会で政策提言を立案し、最後の報告のときに提案をするということで決まっておりますので、そこはやっていきますので、またいろんな御意見をいただきながらやっていきたいと思っています。

〔大田基次委員「ありがとうございます」と呼ぶ〕

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ないようですので、あります、今動いた、手挙げようとした。

〔竹之内和満委員「違う違う」と呼ぶ〕

ないようですので、移住・定住促進策について意見交換を終わります。

○ 洋上風力発電について

川原慎一委員長

それでは、次に、今後の調査方法について協議します。

まず、洋上風力発電を議題とします。

今後の調査方法についての御意見ありませんか。

〔発言する者あり〕

1 番最初にですね、今年度、五島市に視察に行こうかという話をしておりましたが、天候、また、五島市のほうの受入れのほうが難しいということで、今年度は西海市に行くということにした経緯もございます。

そういったことも含めですね、来年度ですね、もしくは。

休憩に入ります。

(休憩 午後 3 時 46 分～午後 3 時 47 分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

五島市の視察については、気候等もございますので、なるべくであれば5月。4月は入学式であったりいろんな行事等もございますので、5月ぐらいにできれば、6月になってくると次の議会がございますので、そういったことも考えてと思っておりますので、皆さん方の頭の中に置いていただけたらというふうに考えているところです。

調査方法について、今、御意見もございませんでしたので、今、私のほうから説明させていただきました意見もいろいろ考えさせていただいて、次回開催等についても含めて、委員長に御一任をいただきたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

次に、移住・定住促進を議題とします。

今後の調査方法について、ここについても御意見はございませんでしょうか。

これはですね、以前、五島市には産業厚生委員会が視察に行っているようでございますが、日程とかそういったものも含めて、五島市に渡るとなると日程的には2泊3日取らないと行きにくいのかなっていうところもございます。

2泊3日になると、五島市も移住・定住に対してはいろいろ取組もしているようでございますので、五島市にっていうふうになると、もうパッケージを含めた形で視察になるのかなというふうには考えているところですが、また、その辺りも皆さん方から御意見をいただきたいと思いますので、そこも含めて、ちょっとお考えがあれば御意見をいただければと思うんですが。

木下孝行委員

二つの調査項目を一緒に同じ場所でできるのであれば、それが1番ですってことですよね。日程的に船を使って往復するということで、2泊3日にならざるを得ないのはもうしょうがないと思いますので。そこはもう予算をちゃんとつけてもらうようにして。

牟田学委員

それでいいんだけど、産業厚生委員会で行ったのはツバキで行ったのよね。別の項目、別だったけど、飛行機で行って1泊だったと思う。

川原慎一委員長

休憩に入ります。

(休憩 午後3時50分～午後3時54分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

委員長において整理して、次回の委員会で改めて協議していただきたいと思います。

意見の整理、次回開催等については、委員長に御一任いただきたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

以上で本委員会に付託された会期内に審議すべき案件は全て議了しました。

本日議了しました案件については、委員会審査報告書の作成及び委員長報告並びに議会だよりに関することにつきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

総務文教委員会につきましては、明日は休会いたします。

以上で総務文教委員会を散会します。

（散会 午後 3 時55分）

総務文教委員会委員長 川 原 慎 一